

市テスト（佐伯市評価規準診断テスト）小5・小6・中1・中2・中3

佐伯市では、市内の小学校5年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象とし、小学生は平成23年4月27日（水）・28日（木）に、中学生は平成23年4月13日（水）に、市が独自に作成した問題で「佐伯市評価規準診断テスト」を実施しました。

【実施教科】

小5…国語、社会、算数、理科の4教科 小6…国語、社会、算数、理科の4教科
中1…国語、社会、数学、理科の4教科 中2…国語、社会、数学、理科、英語の5教科
中3…国語、社会、数学、理科、英語の5教科

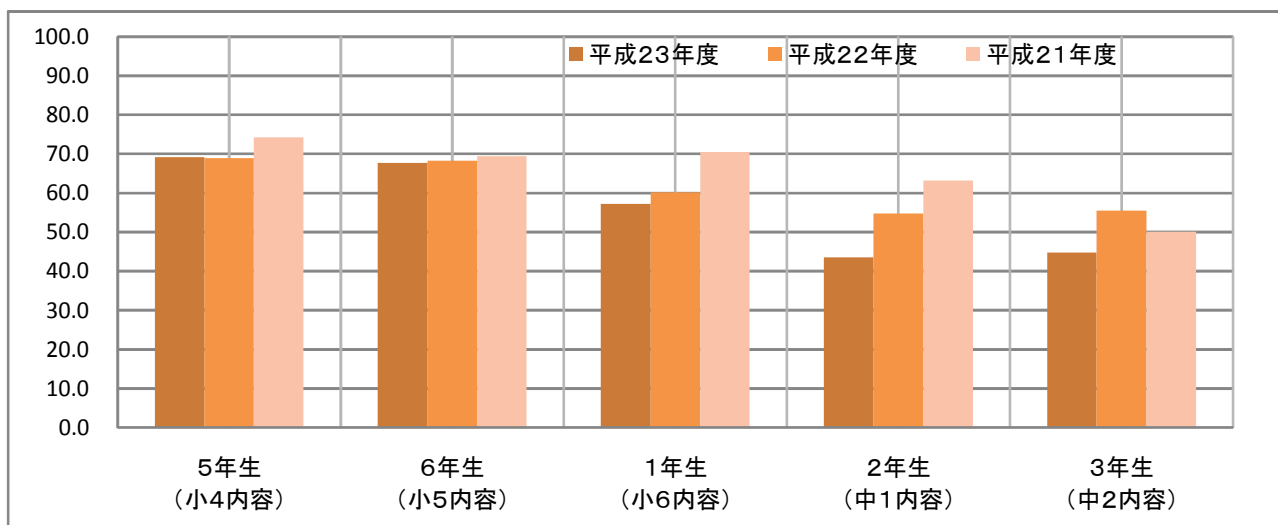
【実施内容】

国語、社会、算数・数学、理科、英語の各教科の問題
生活習慣や学習習慣等に関する生活アンケート調査

【用語解説】

- ※正答率：児童生徒が正答した問題数の割合（％） … 平均値
- ※達成率：目標値を上回った児童生徒数の割合（％）
- ※目標値：児童生徒に到達してほしい基準。目標とする点数の意味合い。
- ※目標とする達成率：佐伯市では各教科とも80％以上の達成率を目標としている。

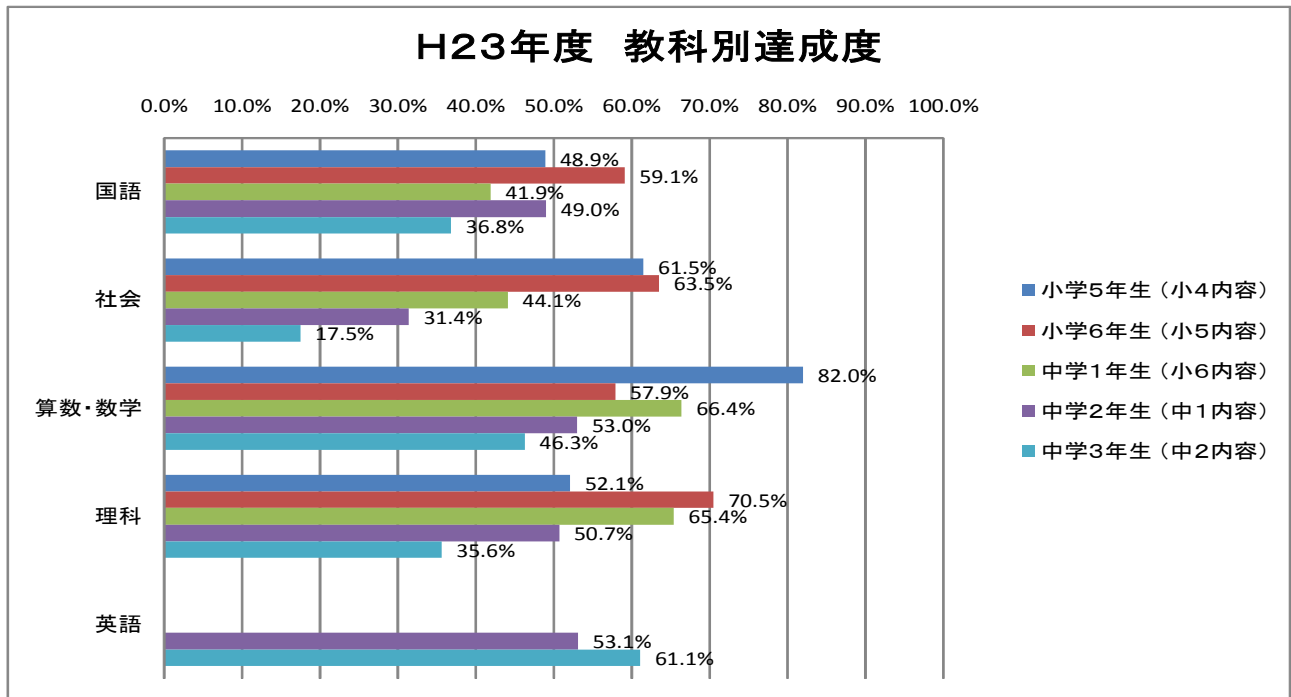
【学年別の結果について】・・・平成21年度～平成23年度の達成率(学年全体)[％]の変化



※目標値（設定通過率の教科合計）を「上回る」「同程度」と考えられる学年別児童生徒の割合（％）

- 学年別に見ると、小学校では、概ね70％近くの児童が、中学校では、概ね40％～60％程度の生徒が評価規準（目標値）を「上回る」か「同程度」と考えられます。
- 各学年集団ともに、学年があがるにつれ、達成度が下がる傾向が見られます。本年度は特に中学校で昨年に比べ下げ幅が10ポイント程度と大きくなりました。これについては、問題作成において「表とグラフを対応させたり、表やグラフから読み取れることは何かを問う」問題や「複数の資料を組み合わせることで解答を求めたり、読み取れることは何かを問う」問題を昨年よりも増やした教科が多いことが要因のひとつとして考えられます。各教科等で、言語活動や読書活動等の充実を図り、情報の取り出し、理解、熟考、表現までを含めた力をつけていくことが一層求められます。

【教科別・学年別の結果について】・・・平成23年度の教科・学年別達成率[%]



| | | | | | | |
|-------|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| H23年度 | | 小学5年生 (小4内容) | 小学6年生 (小5内容) | 中学1年生 (小6内容) | 中学2年生 (中1内容) | 中学3年生 (中2内容) |
| | 国語 | 48.9% | 59.1% | 41.9% | 49.0% | 36.8% |
| | 社会 | 61.5% | 63.5% | 44.1% | 31.4% | 17.5% |
| | 算数・数学 | 82.0% | 57.9% | 66.4% | 53.0% | 46.3% |
| | 理科 | 52.1% | 70.5% | 65.4% | 50.7% | 35.6% |
| 英語 | - | - | - | 53.1% | 61.1% | |
| H22年度 | | 小学5年生 (小4内容) | 小学6年生 (小5内容) | 中学1年生 (小6内容) | 中学2年生 (中1内容) | 中学3年生 (中2内容) |
| | 国語 | 63.6% | 67.2% | 41.9% | 38.0% | 36.8% |
| | 社会 | 59.8% | 63.0% | 81.5% | 65.8% | 70.5% |
| | 算数・数学 | 82.0% | 57.9% | 59.5% | 53.0% | 65.4% |
| | 理科 | 52.1% | 82.0% | 39.8% | 50.7% | 38.8% |
| 英語 | - | - | - | 59.3% | 61.1% | |
| H21年度 | | 5年生 | 6年生 | 1年生 | 2年生 | 3年生 |
| | 国語 | 85.0 | 69.7 | 76.8 | 72.9 | 62.6 |
| | 社会 | 87.4 | 75.7 | 56.4 | 65.2 | 47.5 |
| | 算数・数学 | 49.9 | 56.3 | 61.6 | 55.2 | 53.7 |
| | 理科 | 71.9 | 72.7 | 79.1 | 56.5 | 52.6 |
| 英語 | - | - | - | 65.4 | 39.4 | |

- 各学年で、教科の目標値を上回った児童生徒の割合を、昨年度調査時の学年での数値と比較すると、小学校・中学校ともに、多くの学年・教科で昨年度よりも目標値を「上回る」「同程度」と考えられる児童生徒が減少しています。前述したように、情報の読み取り・熟考・表現を意識した問題が多数出題されるようになってきたことが影響していると思われます。
- 各学校において言語活動を取り入れ、基礎的・基本的知識・技能の習得とともに、それらを活用する学習活動を充実させることを目指した授業づくりが進められてきていますが、こういった結果から、今後、各教科で、個々の定着度を考慮し、下学年の内容の振り返りや補充的な学習等の手立てを計画的に講じると同時に、これまで以上に各教科、総合的な学習の時間等での言語活動等の充実を図り、情報の取り出し、理解、熟考、表現をはぐくむ取組が重要になると考えられます。